

日本応用経済学会ニュースレター

Japan Association of Applied Economics News Letter

第4号 2012年9月

日本応用経済学会事務局：〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1 九州大学経済学部

TEL/FAX：092(642)4448

E-mail: jaae@en.kyushu-u.ac.jp

<http://mweb.healthcare-m.ac.jp/>

目次

会長挨拶

理事会報告

学会誌編集委員会

学会賞選考委員会

国際交流委員会

2012年度秋季大会のご案内

事務局だより

2011年度決算資料

2012年度予算資料

I. 会長挨拶

2012年9月
日本応用経済学会
会長 多和田 眞

本年6月に福岡大学にて開催されました春季大会開催時の理事会および総会で、学会長に承認・選出されましたのでご挨拶申し上げます。前々会長の細江守紀先生、前会長の奥野（藤原）正寛先生の非常なご尽力によって日本応用経済学会はこれまで大変順調に発展をしてきております。学会がこれまで築きあげてきた成果を引き継ぎ、一層の学会の発展のために微力ながら全力を尽くしてまいりたいと思っておりますので、ご協力のほど、なにとぞよろしくお願いいたします。

本学会は前身の西日本理論経済学会を母体として6年前に発足した、若い経済学会であります。年々学会員も順調に増加しており、また春季・秋季の年2回の大会においては多くの優れた研究報告がなされています。本学会の機関紙である「Studies in Applied Economics 応用経済学研究」は年1回の発行ですが、多くの投稿論文の中から厳正な審査によって毎巻非常に質の高い論文が掲載されてきています。さらに本学会では学会賞、学術論文賞、奨励賞を設けて、会員の皆様方の研究活動を積極的に支援しています。学会が国際的な学術研究の発展に寄与するための活動として、韓国の通商経済学会や応用経済学会、そして中国の数量経済学会との学術交流があげられます。交流はお互いの大会への会員の相互派遣に加えて、韓国の2つの学会とはお互いの機関紙への投稿の推進を図ってきています。

世界経済はヨーロッパの危機的な財政状況や地域間、階層間における所得格差の拡大が

世界経済の不安定化をもたらし、日本経済も巨額の財政赤字に加えて、東日本の大震災からの復興とエネルギー問題、さらには高齢化社会における福祉政策と消費税の導入問題など多くの深刻な経済問題を抱えています。このような困難な経済状況の中で直面する様々な課題に対して積極的に取り組み、将来の展望が開ける研究を目指し、社会に貢献できるような学会活動を願っています。

II. 2012年度理事会報告

2012年度春季大会理事会報告

開催日：2012年6月9日10:30~12:00
開催場所：福岡大学2号館地下1階会議室1

出席者：大住、多和田、福重、細江、秋山、北原、中村、山田、青木、内山、永星、慶田、林、焼、藪田、渡辺（以上理事）、板倉（監事）、前川（次期開催校より）、坂上、内藤、野崎（以上事務局）

議題

1. 前回理事会以降申込のあったもの10名の入会、および2名の退会が承認された。
2. 秋山常務理事（財務担当）より2011年度会計報告が行われた。監査については板倉先生より監査の結果、適正であることが報告され、審議の結果、承認された。
3. 秋山常務理事（財務担当）より2012年度予算（案）について説明が行われ、承認された。
4. 焼田編集委員長より、今年度学会誌への投稿・査読状況の説明がなされた。
5. 学会誌第6巻の編集終了にて編集委員長の任期満了となり、新編集委員長として山田光男理事が選出された。

6. 役員・委員長改選が行われた結果、2012年～2013年度役員については以下の通りとなった。

会長：多和田真（名古屋大学）

副会長：大住圭介（福岡女子大学）、成生達彦（京都大学）

常務理事：福重元嗣（大阪大学）、田中廣滋（中央大学）、秋山 優*（九州産業大学）、

細江守紀**（熊本学園大学） * 財務担当、** 総務担当

理事：青木玲子（一橋大学）、大川隆夫（立命館大学）、中山恵子（中京大学）、村田省三（長崎大学）、秋本耕二（久留米大学）、貝山道博（山形大学）、林田実（北九州市立大学）、焼田党（名古屋市立大学）、今泉博国（福岡大学）、

林正義（東京大学）、山田光男（中京大学）、内山敏典（九州産業大学）、木原隆司（アジア開発銀行研究所）、氷鮑揚四郎（筑波大学）、柳川範之（東京大学）、江副憲昭（西南学院大学）、慶田收（熊本学園大学）、福澤勝彦（長崎大学）、三浦功（九州大学）、奥野（藤原）

正寛（流通経済大学）、坂上智哉（熊本学園大学）、堀宣昭（九州大学）、藪田雅弘（中央大学）、渡辺淳一（福岡大学）、永星浩一（福岡大学）、中村 保（神戸大学）、前田隆（金沢大学）、

監事：小出秀雄（西南学院大学）

（順不同、敬称略、氏名（所属）に下線があるのは新任者）

7. 大住副会長より中国数量経済学会への参加について説明があり、会員から参加者を募ることとなった。また参加者には学会より宿泊費の一部補助を行うことになっている。

8. 次回の秋季大会は11月17日（土）、18日（日）に明海大学（千葉県浦安市）にて開催されることとなり、大会実行委員長である

前川俊一教授より挨拶と、準備についての説明があった。

（以上）

III. 「応用経済学研究」編集委員会報告

2012年8月

「応用経済学編集委員会」委員長
焼田党（名古屋市立大学）

I. 第5巻の刊行について

第5巻は本年1月に刊行された。第5巻の編集作業では投稿された論文は20本、継続審査となっていた論文3本の計23本であったが、そのうち11本が研究論文として、3本が研究ノートとして掲載された。

II. 第6巻の編集について

第6巻については、本年12月に刊行の予定であり、第5巻刊行前に投稿され継続審査となっていた論文1本とその後投稿された論文21本の計22本の論文について、査読作業を進めている。最終的に掲載論文を決定するにはまだ時間があるが、8月初旬の時点では、8本を研究論文として、1本を研究ノートとして第6巻に掲載の予定である。なお、8月初旬に審査中の論文のいくつかについては審査が発行に間に合うように終了する可能性もあるが、上記22本の論文のうち数本の投稿論文については8月末までに査読作業を終了できない見込みであり、それらの審査は第7巻の編集作業と並行して行われることとなる。

III. 編集委員会について

本年6月の理事会において、第7巻以降の編集委員長に中京大学の山田光男氏が決定され、副委員長に神戸大学の中村保氏が留任、新たに大阪大学の福重元嗣氏も加わることとなった。編集委員についても交替が行われる見込みである。事務局は九州大学に置くことにな

るが、事務局構成員についても交替の可能性
がある。これらは9月に決定される予定である。

なお、韓国経済通商学会機関誌『経済研究』
及び韓国応用経済学会機関誌'Korean Review
of Applied Economics'との協定により、編集委
員の相互乗り入れが行われている。前者につ
いては、韓国側からは Chongung Kim 氏
(Daegu Hanny University)と Iltae Kim 氏
(Chonnam National University)が『応用経
済学研究』の編集委員に、日本側から小川光
氏(名古屋大学)と内田交謹氏(九州大学)が
『経済研究』の編集委員に加わっており、後
者については韓国側からは Jungsoo Park 氏
(Sogang Univeristy)と Byeongseon Seo 氏
(Korea University)が『応用経済学研究』の
編集委員となり、日本側からは依田高典氏(京
都大学)と焼田党(名古屋市立大学)が'Korean
Review of Applied Economics'の編集委員に
なっている。

IV. 2012 年度学会賞について

学会賞選考委員長
中央大学 田中廣滋

学会賞

佐藤泰裕(大阪大学)

(推薦理由)

佐藤氏の研究は、ジョブ・サーチあるいはマ
ッチングの問題を都市の構造との関係で分析
を進めることによって、空間経済における重
要な貢献をしている。その研究はグローバル
経済における租税競争あるいは労働市場の問
題へも展開されており、今後、より大きな理論
体系が構築されることも期待される。本選考
委員会は佐藤氏の国内外での研究業績が、応
用経済学の発展に貢献するものであり、学会

賞の受賞に値するものであると推薦いたしま
す。

(選考対象論文)

“International Commodity Taxation in the
Presence of Unemployment,” *Journal of
Public Economics*, 2009, 93, pp.939-949.

“Migration, Skill Formation, and the Wage
Structure,” *Journal of Regional Science*,
2011,51,pp.5-30. 共著者 K. Bherens

受賞者講演概要

演題:Free entry, regulatory competition,
and globalization

講演のテーマは、鈴木興太郎・清野一治らの議
論で有名な過剰参入定理をグローバル経済に
おける資本移動に発展させて議論する。経済
の自由化と規制緩和を契機として、拡大した
経済社会活動のグローバル化は、資本の流れ
を加速させる各国の課税政策の競争としての
側面も有している。海外からの資本の流入に
有利な政策は課税収入を低下させるが、雇用
に創出や所得の増加などの国内により大きな
外部効果をもたらす。その反面、自給自足経済
と開放経済を比較分析して、企業の立場から
見ても、資本参入に関する混雑費用を考慮す
れば、国際的な資本移動に関しても、均衡の静
謐が明らかになる。東西経済モデルを適応す
ることによって、超過負担を最小化する最適
課税を論じることが可能となる。

学会賞(奨励賞)

北村 紘(札幌学院大学*)・宮岡暁(大阪大学)

*授賞時の所属

選考対象論文

“Market Diffusion with Consumer-Based Bilateral Learning”

(推薦理由)

北村紘氏と宮岡暁氏による選考対象業績である, “Market Diffusion with Consumer-Based Bilateral Learning” は, 市場成長の理論分析を行っており, 財・サービスの品質の不確実性が存在する下での市場規模拡大の時間経路を理論的に分析している. 既存研究では, 新しい財・サービス市場は価格が下落しながら S 字に成長するという現象を生産技術の改善に注目して説明しているが, 本論文では消費者と生産者の直面する 2 種類の不確実性によっても説明できることを明らかにした. 北村氏と宮岡氏が今後の企業理論の研究への貢献が期待されることから, 奨励賞の受賞に値するものであると推薦いたします.

V. 国際交流委員会報告

「2012 年度韓国応用経済学会定期学術大会への参加について」

徳島大学 内藤 徹

2008 年から継続している韓国応用経済学の定期学術大会への参加は日本応用経済学会が国際交流活動の 1 つとして継続的に行っているものです. 2012 年度の大会は 4 月 20 日にソウルの延世大学で開催され, 日本応用経済学会からは中村保先生 (神戸大学), 木原隆司先生 (アジア開発銀行研究所, 現: 関東信越国税不服審判所), 森田圭亮先生 (京都学園大学), 筒江紗耶先生 (東京大学大学院) と私の計 5 名が参加し, 英語セッションで論文を報告しました. 研究大会では理論・実証, ミクロ・マクロと多岐にわたった報告が日韓両国の研究者によってなされました. また会長

の柳先生, 開催校である延世大学の李先生には貴重な交流の場を設定して頂きました.

VI. 秋季大会について

2012 年度日本応用経済学会秋季大会は 11 月 17-18 日に明海大学の前川俊一先生を大会委員長として準備が進められております. 会員の皆様には奮ってご参加のほど, よろしくお願い致します.

VII. 事務局便り

厳しい暑さがようやく解放されるようになりました. 先日, 福岡大学で開催されました春季大会では大変お世話になりました. とくに, 大会実行委員会委員長の永星浩一先生はじめ各委員の先生方, また, プログラム委員会の皆様には感謝申し上げます. お陰様で多くの方々の参加があり, 喜んでおります. 大会が皆様の有意義な学术交流の場としてより一層の評価を受けるように頑張っていきたいと思えます.

(ニューズレター作成担当 内藤徹 (徳島大学))

平成23年度 日本応用経済学会 会計報告

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(b)-(a)
繰越金	1,649,611	1,649,611	0
会費収入	2,820,000	2,757,000	-63,000
参加料収入	600,000	522,000	-78,000
懇親会費収入	240,000	231,000	-9,000
学会誌収入(掲載料他)	180,000	180,000	0
利子収入		100	100
中京大学より		80,000	80,000
合計	5,489,611	5,419,711	-69,900

2. 支出の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a)-(b)
通信費	100,000	106,315	-6,315
消耗品費	100,000	94,671	5,329
事務補助費	350,000	398,969	-48,969
学会開催補助費	600,000	600,000	0
懇親会補助費	240,000	231,000	9,000
理事会開催補助費	100,000	99,000	1,000
各種委員会開催費	50,000	0	50,000
シンポジウム等補助金	200,000	184,720	15,280
学会賞	60,000	48,550	11,450
国際交流費	350,000	154,540	195,460
払込手数料	50,000	36,730	13,270
学会誌購入	1,600,000	1,643,355	-43,355
雑費	50,000	45,252	4,748
予備費	1,639,611	0	1,639,611
小計	5,489,611	3,643,102	1,846,509
繰越金		1,776,609	
合計	5,489,611	5,419,711	69,900

上記の通り報告致します。

監査の結果、上記相違ありません。

会計担当理事 秋山 優
 会計担当幹事 野崎 竜太郎
 監事 板倉 理友



平成24年度 日本応用経済学会 予算

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額	備考
繰越金	1,776,609	
会費収入	2,860,000	(8,000円×315人)+(5,000円×50人)+90,000
参加料収入	560,000	2,000円×140人×2回
懇親会費収入	240,000	[(1,000円×20人)+(2,000×50人)]×2回
学会誌収入	180,000	掲載料15,000円×12人
利子収入		
合計	5,616,609	

2. 支出の部

項目	予算額	
通信費	100,000	
消耗品費	100,000	
事務補助費	350,000	150,000+200,000円
学会開催補助費	600,000	300,000円×2回
懇親会補助費	240,000	懇親会費収入と同額
理事会開催補助費	100,000	50,000円×2回
各種委員会開催費	50,000	
シンポジウム等補助金	200,000	
学会賞	60,000	
国際交流費	350,000	招待費用、派遣費用
払込手数料	50,000	
学会誌購入	1,650,000	
雑費	50,000	
小計	3,900,000	
予備費	1,716,609	次期への繰越金予想
繰越金		
合計	5,616,609	